

ホイール専用コーティング剤

G.Guard 取り扱い説明書

この度は、G.Guard をお買い上げいただきありがとうございます。

ご使用前にこの説明書を良くお読みのうえ、正しい手順で施工を行ってください。誤った手順で本製品を施工されますと本来の効果が発揮出来ない場合がありますので十分ご注意ください。

- ◆ホイール表面にブレーキダストや鉄粉が付着したまま施工されますととれなくなります。
- ◆ホイールに油が付着していますと本製品が上手く密着しません、油分は完全に除去してください。特にエアバルブ周り、グリス等の油が出てシミになる可能性がありますので洗浄は入念に行ってください。
- ◆炎天下、直射日光のあたる場所でのご使用。又、走行後のホイールが過熱した状態でのご使用はお避けください。
- ◆取扱い作業場所は換気の良い所で、火気に十分注意して取り扱ってください。
- ◆G.Guard が施工部分以外に付着した場合は、速やかに拭きとってください。標準硬化しますと塗膜を除去できません、ご使用場所には十分ご注意ください。
- ◆ホイールの表面加工の種類によっては施工が難しい場合があります。

- ◆乳幼児の手の届くところに置かないでください。
- ◆皮膚に付着した場合は、石鹸で洗ってください。
- ◆万一目に入った場合は直ちに十分な水で洗って、医師の診断を受けてください。

【製品特徴】

G.Guard は、ホイールに塗る事でシリカガラス(SiO₂)という非常に薄いガラス膜を作るホイール専用コート剤です。このガラス膜は紫外線に強く超耐久性を発揮するとともに、約700℃程度までの熱に耐えられ、不燃性、耐酸性、耐透水性、耐汚染性、防錆性に優れています。塗膜は非常に薄い膜厚です。ホイールは過酷な条件下にあり、ブレーキダストをはじめ様々な汚れが付きやすい物です。G.Guard を施工しますと、ホイール表面に薄いガラス膜を形成し、頑固なブレーキダストなどの汚れが付き難くなります。また、錆を防ぎ、汚れが簡単に落ちるようになります。

【パッケージ内容】

- ◆G.Guard- I ◆G.Guard- II ◆下地処理剤
- ◆塗り込みクロス ◆拭き上げクロス
- ◆施工用手袋 ◆取扱い説明書(本書)

【対応材質】

- ◆鉄・アルミニウム・ステンレス

《注意》メッキホイールや表面を磨いて鏡面処理してあるホイールには施工出来ません。

【塗膜硬化時間】

指触乾燥(気温20度) 2～3時間
標準硬化(0H～2H) 24時間
完全硬化6日以上(4H～9H: 基材や環境によって異なります。)

【塗膜性能の発現について】

不燃性造膜 40時間前後
耐溶剤性造膜 3～6日
耐水性造膜 24時間前後
(膜圧や環境により異なります)

【保管について】

お買い上げ後、出来るだけ早くご使用下さい。保管される場合は冷蔵庫に入れてパッケージに記載の使用期限をお守り下さい。2液を混合した場合は3日以内にご使用ください。

【成分表示】

- ◆G.Guard- I
シラン・メタノール・変性シリコン・IPA・その他
- ◆G.Guard- II
チタン誘導体・アルコール類・その他

【別売品】

- ◆ホイールクリーナー ◆IPA ◆洗車スポンジ
- ◆マイクロファイバークロス ◆鉄粉取り粘土
- ◆その他の商品も取扱っていますので、当社ホームページをご覧ください。

【ご使用方法】

ご使用前にご準備ください

※施工中は手あれ防止の為、必ず付属の施工用手袋を着用してください。施工用手袋着用の上に軍手を着けますと、やぶれ防止になります。

※下地処理剤、ホイールクリーンをご使用される場合はマスクを着用してください。

※施工は通気性の良い日陰で行ってください。

※G.Guard は2液制です。施工前に G.Guard-Ⅰの容器に G.Guard-Ⅱを入れて、よく混合してください。

1：ホイールの汚れをきれいに落とします。

ホイールに付着している汚れ(ブレーキダスト・鉄粉等)をスポンジや軟らかいブラシ等で除去してください。汚れがひどい場合はホイールクリーンをご使用されますと、汚れが落ちやすくなります。また、鉄粉取り粘土をご使用されますと、こびり付いたダストや鉄粉が落ちやすくなります。鉄粉取り粘土を使用した場合は、ホイールに付いた粘土を除去するため再度ホイールクリーンで洗浄してください。アルミホイールの腐食している部分は、ホイールクリーンを用いても腐食は落ちません。〔スポンジ&ホイールクリーン&鉄粉取り粘土は当社でも販売しています〕

2：水で洗い流す。

スポンジ等を使用して水洗いしてください。ホイールクリーンをご使用された場合は、特に念入りに水洗いしてください。

《注意》ホイールクリーンが施工面に残っていると3で使用する『下地処理剤』と化学反応を起こし有毒ガスが発生する場合があります。

3：下地処理を行います。

水洗い後は濡れたままの状態ですべて『下地処理剤』を満遍なく吹付け、スポンジや軟らかいブラシ等で油分を除去します。油分を完全に除去するため数回繰り返し、良く水をかけ『下地処理剤』を残さぬよう洗い流します。

4：乾燥させます。

G.Guard は水分を嫌いますので、完全に乾燥させてから施工してください。水分が残っているとコート剤がうまくのりません。水分を拭き取る前にブローすると良いのですが、ご家庭にあるドライヤーや空気入れ等で代用できます。

5：塗り込みを行います。

塗り込みクロスに G.Guard (混合済み) を適量含ませ塗り込みます。塗り込み後すぐに塗り残しとムラを無くすため、塗りこんだ G.Guard を同じクロスで延ばします。

(この時 G.Guard をクロスに含ませる必要はありません)

《注意》リムとスポークの結合部分や、Rのきつい部分は塗り込みが甘くなりがちですので、特に念入りに塗り込みます。塗り込みを雑にされますと G.Guard の効果が発揮されません。また G.Guard を厚く塗る必要はありません、厚く塗るとムラや硬化時間が遅くなります。

6：拭きあげます。

ムラが気になるようであれば塗り込み後、直ぐに拭き上げクロスにて、塗りこんだ部分を均一に塗り延ばしてください。時間を置いての拭き上げ、作業を雑にするとムラになりやすいので十分注意してください。

《注意》ムラが気にならなければ必要ありません。拭き上げをしない方が G.Guard の効果が有ります。

【施工後の注意】

施工後2～3時間は指などで施工面に触れないでください。また、施工後24時間以内は雨・水に当てず、車の走行は出来るだけお控えください。

《注意》G.Guard は空気中の水分と反応してシリカガラスになります。水には十分注意してください。

【施工後のお手入れ】

洗浄は柔らかいスポンジかクロスを使って水洗いをしてください。汚れが気になるようであれば、洗車専用シャンプーかホイールクリーンを使用してください。

《注意》ホイールクリーンを使用した場合は、ホイール表面にクリーンを残さぬよう良く洗い流してください。

施工方法などの説明は当社ホームページをご覧ください。

Ver1.1

発売元 有限会社 ワンダーテック

<http://www.wondertec.co.jp/>

E-mail : sales@wondertec.co.jp